

2023年12月25日

第59号

自然と文化だより

発行: NPOシニア自然大学校
自然と文化科

***** 目次 *****

P1 仲間たちの近況報告(1)

1班 大石 博司

2班 堰口 義明

P2 仲間たちの近況報告(2)

3班 中川 四郎

P3 仲間たちの近況報告(3)

P4 4班 山上 恵子

P5 私の玉手箱 堂瀬 廣幸

P6 樹木ウォッチング 遊上 真一

P7 絵画コーナー 谷坂 修二

P8 絵画コーナー 藤原 敦子

P9 絵画コーナー 藤原 敦子

P10 写真コーナー 田中 悦郎

P11 万博NF 玉尾 洋一

P12 俳句・川柳・短歌コーナー

山上 恵子

P13 川柳コーナー 宮澤 富美雄



カラタチバナ

◇自然と文化だより◇

毎年初詣はどこにしようかと迷うが、ある人から情報をいただき、干支と関係がある「室生龍穴神社」に決めた。ご祭神は「高麗の神（たかおかみのかみ）」で、日本神話に登場する神だ。神名の「麗（おかみ）」は龍の古語であることから、雨をつかさどる龍神の意味とされている。気に入ったのは、ここの伝説だ。「室尾の龍穴に住む善女竜王は、興福寺の猿沢池にいたが采女の入水を嫌って、春日山の南にある香山に移り住んだ。そこにも死体が捨てられるようになって、室生の龍穴に移った」とある。采女の伝説で龍が登場するが、春日山から室生に逃れたとは知らなかった。是非詣でたいと思う。また香山で住んでいたこともあり、春日大社の龍王社にも祀られている。「水谷九社巡り」の内の一社であり、近場ならここがお勧めだ。 Y. T

京都北部（美山の里・芦生の森）の小旅行

1 班 大石 博司

11 月の第 3 週に美山のかやぶきの里と芦生の森への一泊小旅行に行きました。休日・祝日に京都駅から出る美山への直行バスに乗り、2 時間ほどで到着。便利でした。お天気も良く、早速散策。

かやぶきの里は現役時代から何度も訪れていますが、ガイドさんの説明付きは初めて。茅葺きの維持はやはり大変そう。茅葺きの技術は無形文化遺産に指定とのこと。散策後、迎えのバスで芦生山の家へ。



ヤマグルマ

翌日は朝食に採れたてのナメコが入った味噌汁を味わい、ガイドツアーへ出発。

F さんと言うベテランガイドが案内役です。この方が

植物の樹木、シダ、地衣類は勿論、昆虫、地質もスラスラと、さらに動物のフンも捜してタヌキのものでケンパンシを食べていますとかの説明を。

「流石、原生林のガイドさんは違うな」と、高めのガイド料のことも忘れてしまいました。最近、芦生の原生林の本を出しましたとのこと、帰宅してお名前からネットで検索して、早速注文。直ぐに見つかり翌日配達となり、熟読中・・・。

ツアーは平坦な林道歩き（下谷コース）で、エゾユズリハからスター



ート。期待していた紅葉はあまり鮮やかではないものの、ミズメ、サワグルミなど



こちらの近郊の山では見かけない

樹木が普通に現れます。地面にはトヤマシノブゴケ、ジャゴケが。落葉を拾いながら、観察（カエデ類など）。続いていろいろな果実を。さらにヤマトゴケなどコケ類、大木のトチノキ、カツラ。ミズナラはナラ枯れで激減とのこと。芦生らしくないメタセコイヤの黄葉、最後にユクノキ。鹿の食害は依然として深刻。地形が厳しく駆除は困難で防護柵などで植生の回復具合を確認中で雪が深く防護柵のメンテが実に大変との説明。刺激溢れる二日間でした。



こどもゆめくらぶに入って

2 班 堰口 義明

今年 5 月より高石ジュニアこどもゆめくらぶに行くことにしました。経緯は同じゴルフクラブに入っている W さんから人が少なくなって手伝ってほしいとの話があり、考えてみれば今まで娘と一緒に遊んだ記憶が少なく、また孫とも遊んだ記憶がありません。子供との付き合い方もろくに知りません。月 2 回程度ならそんなにしんどく無いだろうと思い行くことにしました。高石ジュニアは浜寺公園の南端の大阪府青少年センター周辺で活動しています。子供は 40 人 4 班で活動しています。スタッフは 15 名程度、9 時 15 分に集合し、その日の段取りや注意事項を確認することから始まります。9 時 30 分ごろから子供たちが親御さんに連れられ、集まってきます。その時名札のついた帽子を渡し出席の確認を行います。



10 時から朝の集いがあり、プログラム説明、注意事項があり、唱歌を歌いこの日のプログラムのセミ

の抜け殻集めに公園内に出発します。班ごとに行動するのですが、別行動する子もいるので見ているのも大変です。夏の間は熱中症にならないよう、こまめにお茶を飲むように言います。セミの抜け殻を集めてきてセミの種類の分類をしたりオスとメスを分けたり、私も知らないことを教えていただいています。お昼は全員おにぎりと決まっているので、みんなでブルーシートの上で食べます。昼からは青少年センターの教室でセミの集計の発表をした後、セミの工作をします。なかなか個人



差があって、すぐできる子もいれば、なかなか難しい子もいます。その子の横についてお手伝いもします。セミが出来上がれば、みんなでセミの木登り

競争をやります。勝った子供はメダルが与えられます。子供たちは必死になり楽しめます。これが



終わるとふりかえりとして今日の出来事等感想を書いてもらって 3 時に保護者が来ているのを確認して帽子を返してもらいます。それ

がすんでスタッフの会議があって終わります。丸一日、子供と色々遊び楽しいですが、結構疲れます。沢山元気をもらって楽しい一日を過ごしています。また色々報告します。

工作同好会と「干支・工作」

3班 中川 四郎

2008年4月「自然と文化科」の初の同好会として工作好きの有志が集まり32名の会員で工作同好会をスタートし15年が経過しました。

2010年には最大会員47名を数えましたがその後は減少傾向ながらも30名前後の会員を維持し月1回の工作実習を実施し工作技術を磨くと共に自然大学校文化展への出展、万博NFへの協力等社会貢献活動にも積極的に参加してきました。

2020年12月思わぬ事態が発生しました。新型コロナウイルスの感染拡大です。それまで1度も休む事なく毎月開催してきた工作同好会も休止に追い込まれました。その後、21年3月に私自身が軽い脳梗塞で倒れたこともあり22年度で工作同好会を終了したいと提案したところメンバー全員が協力を申し出、古荘さんを代表幹事とした新体制で4月から工作同好会を再出発することになりました。これからは顧問として古荘さんを助けてまいります。皆様のご支援をお願いします。

さて本日のテーマの「工作同好会と干支工作」ですが、干支工作として本格的に取り組みだした切掛は、12年に会員全員対象に工作課題として翌年の「干支・卯」を作り最人気作品（メンバー間の投票）を表彰しようという試みです。

18人から応募があり、結果は下の竹細工が選ばれ堀田さんの指導で参加者全員が作り上げた。

残念ながらこの試みは各自の負担が大きいとの声に押されて1回限りで終了となったが、干支工作は継続することで当面私が担当することになった。

13年の干支工作「辰」は「雲龍」に挑戦



13年干支工作「雲龍」



14年は小阪さんが竹細工で参加してくれた（右）
15年、16年は小阪さんは不参加でした。



14年干支工作「巳」



15年の干支工作「午」



16年の干支工作「未」

17年の干支工作「申」：小阪さん復活



かわいい三猿竹細



18年の干支工作「酉」



19年の干支工作「戌」



20年の干支工作「亥」



21年の干支工作「子」



22年の干支工作「丑」



23年の干支工作「寅」



仲間たちの近況報告 (3)

鶴殿ヨシ原と雅楽器

4 班 山上 恵子

11 月 28 日シニア自然大学校の 30 周年記念式典に参列した。東儀秀樹氏の雅楽（日本の古典音楽の 1 つ、重要無形文化財、ユネスコ無形文化遺産）の講演会があった。

東儀氏は元宮内庁楽部の職員で雅楽シチリキの奏者。独立して日本の伝統文化の紹介に力を入れている。



シチリキはヨシが無くてはならない邦楽器で、ヨシは高さ 3m の大形で太く弾力が有りリード（吹き口）として珍重され、毎年宮内庁に 100 本献上されている。そのヨシが高速道路建設の為危機的な状況と知り、自文科の協力のもと署名を集めた事を思い出していた。

本科の時初めて淀川河畔の広大な鶴殿のヨシ原を見学、鶴殿は古事記にも記載があり、奈良時代の牧場だったらしく、平安時代に造られた宿「鶴殿」が地名の由来で、その建設は多くの反対の声の為に中止になったと聞いていた。過去の経緯は

- ・1971 年から淀川改革事業によりヨシ原の面積が減り外来種の侵入で生物群が危機に直面。下流工事で上流の水位が下がり冠水、干陸化でヨシ原の減少が進む。

- ・1997 年河川法が改訂され、その目的に治水、利水、環境が含まれ生態系の保全が法律的に義務づけられ、上流部に揚水ポンプ設置。ヨシ原の面積が甲子園球場の 18 個分広がるなど一定の成果が現れた。

- ・計画は八幡市一高槻間のヨシ原上を通る為抜本的な見直し区間「当面着工しない区間」と一旦凍結されたが、2012 年国交省の事業許可が下り、ヨシ原の保全と道路事業の両立を図る為、専門家などから「必要な調査、助言を得る」事を目的に検討会が設置され、定期的に会が開催されている。令和 5 年 10 月現在、進行形である。

雅楽は 日本大切な文化。古来の儀式音楽、舞踊など中国大陆や朝鮮半島から伝えられた。平安時代に日本独特の様式に整えられて雅楽演奏に。宮廷は勿論寺院や神社において盛んに演奏された。この文化を現代社会の弊害で無くしてはならない。声を大にして、守る必要がある。



久かたの天津乙女の夏ころも・・・

4 班 堂瀬 廣幸

小学校の頃なにか行事があるといつもこの滝まで往復するのが恒例で、林間学校の時はこの滝をバックに写真撮影後、市ヶ原～稲妻坂～天狗道～摩耶山（ユースホステル、今は無い）で一泊して下山。

そんな具合で春夏秋冬よく行った処で今も植物観察等縁あって拝観している。

その頃は“神滝”とは知らなかったと思う・・・

それとも——左からから右へ～？

余りにも近すぎて気にしていないが本音？～

かも・・・

この“布引の滝”は雄滝、夫婦滝、鼓瀧、雌滝の四つの総称で熊野の“那智の滝”日光の“華厳の滝”と並んで日本三大神滝の一つとされている。中でも白い布を引いた様な美しい姿の“雄滝”は春夏秋冬、周りの木々の変化する色彩に併せ素晴らしい景観を魅せてくれます。

自身がこの滝と云っているのは“雄滝”です。

また、平安時代の昔から数多くの貴族、歌人たちがこの地を訪れ多くの名歌が詠まれたとあるが現在でも知らない人がいるのでは？！

多くの人は観光で“布引の滝”を目当てに、また植物観察でこのコースにやって来る人たちも例外なく見向きもしないで通り過ぎるようです。

この道程は“布引三十六歌碑の道”でもあり、また都から暑さを逃れこの滝の涼しさを求めその時の感情を詠ったのでしょう。

我が世をは今日か明日かと待つ甲斐の

涙の滝といつれ高けむ

23 番 在原 行平



～雲井にさらす布引のたき～

25 番 藤原 有家

このような姿の滝は珍しいのでは・・・

四つある中で一番大きい“雄滝”は高さ 43 ㍎ 水は六段に折れながら下の滝壺に落ちています。そして、この段ごとに五つの水が挾った深い甌穴（おうけつ・横穴）が空いていて、水はこの穴に入ってはまた出ていくという形で六段に折れ、白い水玉を飛ばしながら落下する。伝説によると甌穴は上から“滝姫宮”“白竜宮”“白鬚宮”“白滝宮”および“五竜宮”と称され、乙姫様がこれら竜宮城に住んでいて、船舶や船人を守ったり、また樹木を繁らせ、穀物を実らせるなど人々を助けてくださると謂われている。

大自然の爲した“雄滝”の甌穴は、地質学的にも大変貴重なものだそうです。



これが“神滝”と謂われる由縁かも！

（※甌穴にはまった石は角が取れ丸くなって祀られている。おんたき茶屋近くの処です。）

下山途中の見晴台からの眼下は、世界の神々に門戸を開いた神戸の街に其々異国の教会、寺院、異人館等エキゾチックな雰囲気をも漂わせている。

ここは私の「心の玉手箱」です・・・

了

高山に生えるカエデ 1

3班 遊上 眞一



日本で一番標高が高い亜高山帯に生えるカエデ、オガラバナ。花序は穂状に上向きに咲く。
南アルプス北岳（左）と至仏山（右）で撮影



こちらも 亜高山帯に生える、ミネカエデ。
雄花が満開です。至仏山



ミネカエデの黄葉。八甲田山

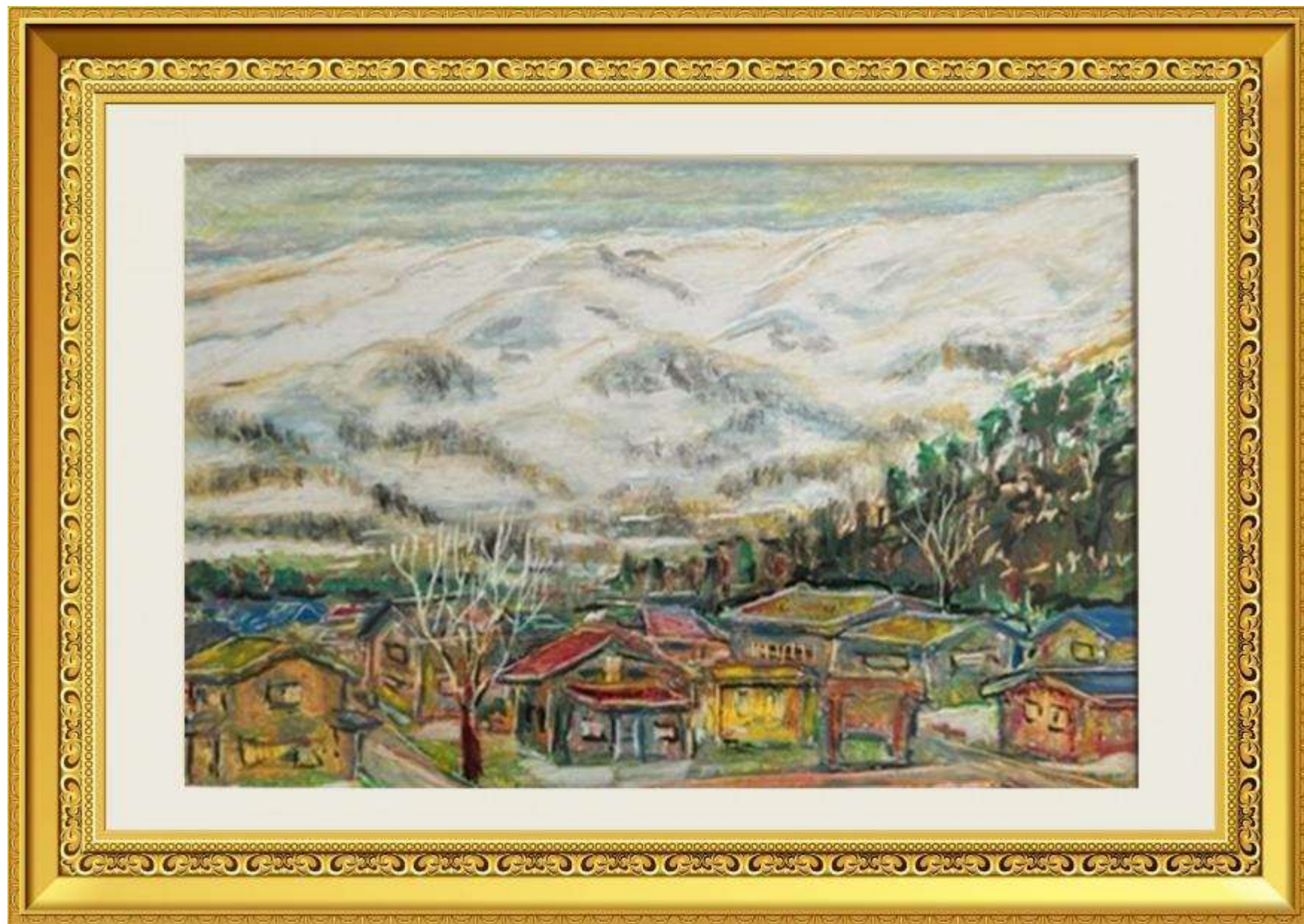


樹皮に特徴があるオオイタヤメイゲツ
冷温帯で純林を作ります。大峰山脈 弥山

冷温帯に生えるカエデ、オオイタヤメイゲツ。
葉の切れ込みは端正で 鋭くピンと張っています。
そして、毛はなくツルツル。
ハウチワカエデに似ていますが、葉柄は長く、無毛。
天生湿原で撮影



冷温帯に生えるハウチワカエデ。岩木山





トコトコッコ

1 班 藤原 敦子



六甲山に夕日が沈む マンションから眺める 2018.09.11



六甲山の雪景色 裏側（丹生山側）から眺める 2019.02.01



ススキの東お多福山から大阪湾



美濃戸高原のネコシデ



ススキの東お多福山から西お多福山



那岐山のオオイタヤメイゲツ



箕面公園のエドヒガン



赤坂山のアズキナシ



ピラテスト今津のズミ（コリンゴ）とフジ



六甲山中のカジカエデ



柏尾谷池のサワギキョウとヒツジグサ



入笠山のヤナギラン



明石ノ浜のアレチハナガサ



礼文島のエゾイブキトラノオ



佐渡のアサツキ



10月28日



てんとう虫



クリスマスツリー



川柳

- 目の前にしても忘れる忘れ物
- 自分の字解読出来ない時もある
- 通信使歴史重ねし壱岐対馬



俳句

- 浦々に地震の知らせよ冬怒涛
- 息白し夜の帳の中へ出で
- 隣国の秋展望の対馬かな



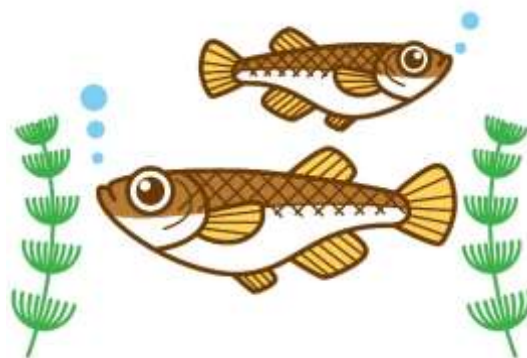
短歌

- 宗教は人の支えに成らずして
殺戮続く世界各地よ
- 窓上げて急に広がる壱岐遺跡
展望室より眼下にありて



川柳

- 歌合戦 アルファベットに 乗っ取られ
- この歌を 聴けば 初恋よみがえる
- メダカにも ちょっぴりお屠蘇 お正月
- あこがれは 金も持たずに 一人旅



59号に投稿頂きました皆様、
お陰様で無事発刊することが出
来ました。ありがとうございました。
次号も引き続き皆様のご
協力をお願いいたします。

広報委員会